

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

九州大学

前期日程

科目

世界史

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

〔1〕の大論述は昨年同様 600 字であったが、〔2〕の論述問題の字数は昨年の 130 字から本年は 160 字（30 字・60 字・70 字）に増加し、論述問題の総字数も昨年の 730 字から本年は 760 字となった。しかし、内容的にはそれほど難しいものではなかったため、難易に関しては大きな変化はなかった。

〈特記事項・トピックス〉

2024 年度まで〔2〕における論述問題の総字数は 300 字前後であったが、2025 年度に 130 字となり、本年も 160 字であったことから、〔2〕での論述問題の比重低下を一つの傾向と考えることができるかもしれない。

〈合格への学習対策〉

九州大学文学部の問題では、〔2〕〔3〕で出題される記述問題や記号選択問題は基本的なものばかりであるため、比重が大きい論述問題の出来が得点を左右することになる。そのため、論述問題対策として

- ① 知識を「時間」（世紀）だけで引き出せるように訓練しておくこと
- ② 問題文の意図を正確につかみ、手際よく答案をまとめる技術を身に付けること

の 2 点が必須となる。特に後者については、駿台予備学校の論述対応の講座や添削指導などを通じて早くから準備しておくことが望ましい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
〔1〕	論述問題 (600 字)	17 世紀後半～18 世紀半ばにおけるイギリスの商業の展開	範囲が約 1 世紀間と短く、第 1 段落の文章とキーワードで説明の方向性も捕まえることができるため、論述問題に慣れていれば割と書きやすかった。	標準
〔2〕	記述問題 論述問題 (70 字・60 字・30 字)	マルクス主義を中心とする社会主義とその世界史への影響	ほぼ近現代史に関する問題であり、論述問題は全て現代史だったが、内容的には教科書レベルで答えられるものであり、難しくはなかった。	標準
〔3〕	記述問題 記号選択問題	世界史における政治権力やその担い手が生み出した収入・支出の仕組み	例年と同じく、基本的なレベルの問題ばかりであった。	易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を 5 段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。